

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577600269		
法人名	社会福祉法人 博愛会		
事業所名	グループホーム秋穂あかり園		
所在地	山口市秋穂東3980番地		
自己評価作成日	平成26年12月24日	評価結果市町受理日	平成27年6月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の思いや希望に添ってドライブに出かけたり、行きたいところ、食べに行きたいところへ行けるよう努めている。
 ・地元中学校のボランティア体験学習や職場体験学習の受け入れ、山口市市町職員の研修の受け入れなど積極的に取り組んでいる。
 ・地域の行事には積極的に参加している(お大師参り、どんど焼きなど)
 ・日々の様子や行事などをすぐにホームページで紹介し、外にグループホームでの取り組みを発信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月のカンファレンスでは、管理者を中心に職員全員が意見を出し合われ、利用者一人ひとりのモニタリングを実施され現状にあった介護計画の作成につなげておられます。センター方式のシートや個人記録、「なんでもノート」を活用され、つぶやき欄から利用者の思いや意向の把握をされ、利用者のしたいことや行きたいところ、食べたいものなどの思いが実現できるように一人ひとりの個別支援に取り組まれています。「グループホームは在宅です。ご自宅の離れとってください。」とご家族に伝えられ、家族との連携を深めるために家族交流会を開催され、運動会やバーベキュー大会、誕生日会、受診同行など日常的に家族と接する機会を多くもたれて家族からの意見が出やすい関係づくりに努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてその語句を頭に入れるというのではなく、その意味について施設内研修や、カンファレンスを通じ考え方の共有に取り組んでいる。又、毎年、前年度の反省及び次年度の目標を全員で話し合い決めている。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している他、業務日誌にも記載し、内部研修やカンファレンスで理念を確認して共有し、意識付けしている。「利用者さんを知る、思いやりの心をもって接する」を全職員で考え今年度の目標とし、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝食の材料を近所のスーパーで購入したり、自治会に加入すると共に、地域の行事（お大師参り、どんど焼き等）に積極的に参加したり、近隣の保育園の園児との訪問交流や、地元小中学校児童生徒との交流や手紙のやり取りなどを行っている。	自治会に加入し、利用者は地元のお大師様参りやどんど焼きに参加し、散歩で近くの商店やスーパー、郵便局、図書館に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり話をしているなど、日常的に交流している。近所の保育園児の来訪や地元の中学生の職場体験、ボランティア体験の受け入れ、手紙のやりとり（年賀状、暑中見舞い）などでのふれあいの他、地域のボランティア（琴、ピアノ、サックス演奏、踊り）の来訪がある。管理者は認知症サポーター養成講座や小学校に出向いての特別授業、民生委員協議会での講話など、認知症への啓発活動を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サービスの利用のみならず、介護保険全般についての質問や相談に随時対応すると共に、認知症サポーター養成講座を地域で開き認知症を正しく理解してもらう為に努めている。高齢者学級で運動会を企画し実行した。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティング等で意義を理解すると共に前回の評価について助言のあったところの改善点を話し合い、改善の為に具体的に取り組んでいる。	自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入したものを計画作成担当者と管理者がまとめている。評価を日々のケアの振り返りとして捉えている。前回の評価結果を受けて、運営推進会議のメンバーの拡大のために、地域の人に声をかけたり、応急手当と初期対応の訓練の実施等、改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、活動の様子や取り組みを伝え、また事故等の発生場所、分類、時間等の分析を説明し現状について報告を行っている。メンバーは利用者、家族、民生委員、地域包括支援センターの職員のほか、隣接施設の職員も加わり、ゾーン一帯で地域と協働できるよう取り組んでいる。年1回は消防所長にも参加して頂き、救急・防災時の連携を深めている。	利用者の利用状況、活動内容報告、事故・ヒヤリハット報告と個別の要因分析状況、災害時・緊急時の対策、外部評価の取り組み状況等について報告し、話し合っている。家族からの要望で、利用者の外出時に同行希望があり実施している。地域メンバーの拡大のために、現在、民生委員や婦人会に出向き協力を依頼している。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や提出書類等あるときは、可能な限り管理者が担当窓口まで足を運ぶようにしている。又、市町新任職員の研修会講師や実習の受け入れも行っている。	市担当課とは、直接出向いたり電話で、相談や情報交換している他、市からの依頼などを受けるなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時や電話で、事例の相談や情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について身体拘束廃止委員会の中で近隣施設と一緒に、会議・研修を行っている。直接的な拘束は少ないので特にスピーチロックについて意識を入れて取り組んでいる。玄関は夜間以外の施錠はしていない。	法人の身体拘束廃止委員会の研修に職員2名が参加し、事業所の全体会議で復命し、資料を供覧して学んでいる他、内部研修でも年2回身体拘束廃止の研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、ビデオ学習や毎月の全体会議で話し合い、ユニット毎に管理者が指導している。玄関は日中は施錠していない。離設者の対策として関連施設や地域との協力体制を築いている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルールの中で、具体的な行動について明記し、職員間で意識の共有を行っている。又、研修や全体会議でも意識をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度面についてはパンフレットを見る程度である。今後必要とされる方がおられるので研修などを行い、理解を深めていく必要がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の概要や料金などインフォメーションの冊子を作り、説明を行っている。入居に関しても、すぐに入居ではなく、不安があれば再度見学に来ていただいたり説明しなおしたりして、本人・家族が納得のいくまで話し入居するか決めてもらっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付や、外部(第三委員や運営適正化委員会)についての説明を行っているが、利用者は自分の思いをうまく伝えられることができない方が多いので、日々の様子について個人記録をつけ想いに添えるよう、気付けるよう努力している。山口市介護相談委員に毎年はいってもらい利用者の声をあげてもらっている。	契約時に、苦情や相談の受付体制や第三者委員の紹介、処理手続きについて家族に説明している。市の介護相談員の協力を得ている。家族の面会時や電話、手紙、運営推進会議、年2回の家族交流会、受診時等に家族からの意見や要望を聞いている。家族と接する機会を多くつくり、家族が意見を言いやすい関係づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開き、その場で意見や提案を聞いている。職員が話しやすい雰囲気作りに努め、職員個人個人の意見や想いを運営に反映させている。	月1回、全体会議、各ユニット会議を開催し、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で出る意見や要望は「なんでもノート」に記録し、職員間で共有している。利用者の状態に合わせて勤務時間を変更するなど、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格更新・研修等、施設負担にて参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行ない、共通言語づくりを図っている。また、ケアカンファレンスには管理者も参加し、スーパーバイズを通じ職員のスキルアップを図っている。	外部研修は職員に情報を伝え、希望を聞いて、経験や段階に応じて受講の機会を提供している。参加者は復命報告をしている。内部研修は計画を立て年6回(身体拘束防止、風水害、救命講習等)の勉強会をしている他、毎月のケアカンファレンスの中で、モニタリングの記録や事例の検討を通して学び、働きながらステップアップできるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「山口県宅老所・グループホーム連絡協議会」「山口市介護サービス事業者連絡協議会」に加入し、研修会や交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、家族だけでなく本人にも来所していただき、施設の中の様子や居室を見てもらい、心配なこと・不安なこと等はないか聴いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主たる介護者だけでなく、可能な限り他の家族や親戚の方にも見学していただき、話を聴くようにしている。入居を急がせるようなことはせず、検討していただいてからの入居となることが多い。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を聞き、どのような支援が必要なのかを話し合っている。本人がどこのサービスを利用するのがいいのか、他サービス利用も含め情報を提供している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という関係ではなく、一緒に生活しているという想いの下、お互いに感謝し合える関係作りを築けるよう努力している。内部研修や、会議等で意識はしているものの、指示的な発言をしてしまうことが多く、まだ不十分である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはグループホームを「自宅の離れ」だと思って下さいと伝えている。日々の利用者の様子を伝え、家族も含め個別で一緒に外出したり、通院している。何か問題が起こった場合は、一緒に考えていくようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブ・買い物など個別に行っている。併設施設からの友人の訪問や、こちらから足を運ぶこともある。他サービスを利用されている家族にも会いに行ったり、会いにきたりしている。	家族や兄弟、親戚の人や友人の来訪がある他、併設施設の温泉ホームやショートステイ利用者である友人との交流がある。馴染みの喫茶店や美容院、神社や寺に出かけている。家族の協力を得て、墓参り、法事や葬儀への出席、お盆やお正月に自宅に日帰り、花火大会、外食、買い物、温泉旅行等、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係で食事の時の席を配慮したりし、話しやすい環境を作っている。職員が間に入り家事や作品作り行うことで、日頃関わり合いがない利用者さん同士でも交流が持てている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院に入院された場合でも、家族から今後について相談にのり、福祉の専門職として助言等行っている。場合によっては病院や施設に家族と一緒に同行したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動及びカンファレンスから、どういう思いがあるのか個人記録をつけ検討している。又、アセスメントについても本人の思いや希望についての項目を第一とし、把握に努めている。	センター方式のシート(私の姿と気持ちシート)を活用し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。日々の暮らしの中での言葉や思いは個人記録に記録している他、「なんでもノート」のつぶやき欄に記録して把握に努めている。困難な場合は利用者本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の日々の生活の会話の中から、これまでの生活環境の把握に努めている。又、家族からの情報や、フェイスシートを参考に共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録だけでなく、「なんでもノート」を活用し、どんな些細なことでも連絡し合い、共有するようにしている。心の状態まで全て把握するのは難しいが、少しでも分かり合えるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	似顔絵を描き、本人の特徴をつかむことや、本人・家族の希望を聞き計画を作成している。ニーズを明確にし長期目標を設定する。まずは短期目標を達成できるよう検討し、少しずつでもニーズに応えられるようカンファレンスにて介護計画を作成している。	利用者や家族の意見、かかりつけ医や看護師、栄養士、歯科医師等関係者の意見を反映して、利用者の担当職員、計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、3ヶ月ごとに見直しをしている他、状態に変化があった場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の様子を記入し、毎月ケアプランの反省・評価を行ない、介護計画の見直しに生かしている。また、職員間で「なんでもノート」には利用者さんの思いを把握する手段の一つとしてつぶやき欄を作り利用者さんがつぶやいたことを記入し職員間で情報の共有を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、家人と一緒に受診の付添や、場合によっては職員対応での受診の付添も行っている。又、隣接施設への行事参加も行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い出しには地元のスーパーへ、本が好きな人は図書館、歌が好きな人はカラオケに出かけたりしている。好きな物が食べられるように外食も月1回程度出掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意のもと、近隣の協力病院をかかりつけ医として受診している。他院受診が必要な場合は、家族と相談し、職員も同行し通院している。入居前からのかかりつけ医に通院されている方もいるが、定期的に職員も同行し、日頃の様子を伝えている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医の他、協力医療機関がかかりつけ医となっている。受診時は職員が家族と一緒に同行し、日頃の様子を伝え情報提供をしている。緊急時や夜間は、併設施設の看護師の協力を得ている他、協力医療機関と連携を図っているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師の配置はないが、利用者の事で気になることがあれば、協力病院の看護師に相談している。必要であればその都度受診している。また、隣接特養の看護師にも相談・処置してもらえる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にて利用者の情報を書面にて提供している。家族と一緒にカンファレンスに参加したり、病院側と連携を取り合うことで、退院時にも安心できる受け入れに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況を見をながら家族や医師と話し合い、今後考えられることを家族と共有している。体調不良や重度化されていく利用者の家族に終末期のあり方や、グループホームで出来ること出来ないこと、もしもの時の話し合いを行っている。	契約時に、事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合には、家族やかかりつけ医と、他施設や医療機関の移設を含めて話し合い、全員で方針を共有し、支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	利用者個別に、ヒヤリハット・事故報告書を細かくまとめ、一人ひとりの状態に応じた防止策に取り組んでいる。隣接施設と一緒に月1回、事故防止検討委員会を実施している。又、年1回救急法・緊急対応研修・AED訓練を行っている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、発生後すぐに話し合っ対策を検討している。毎月1回の全体会議や隣接施設と共同の事故防止対策委員会で、事故要因を分析して、再発防止策を検て、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。AEDの使い方や救急救命の講習の受講、全体会議で事故を想定した介護技術訓練を実施し実践力を身につけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、マニュアルを作成し、年2回避難訓練と、消火器を使用した消火訓練を行っている。	年2回、隣接施設と合同で、昼夜を想定し、風水害を含めた、避難訓練や通報訓練、消火訓練を実施している。近隣の消防署と普段から話し合うことで連携を図っている。隣接の施設と、夜間を含めた協力体制を築いている。運営推進会議でも議題とし、災害時の近隣住民の避難場所として協力するように話し合っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、馴れ合いにならぬよう気を付けている。特に、入浴や排せつ介助時には、羞恥心もあるため特に気を付けている。声掛けについては、会議や研修を行い、指示的な声掛けにならぬよう努めている。	マニュアルがあり、全体会議と内部研修で学び、職員は正しく理解して、一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。職員全員に、コンプライアンスルールが記載してある文書を配布して、職員の意識の向上に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室や散歩、マンツーマンで話す時間を意識して作り、利用者が話しやすい環境作りに努めている。又、利用者本人からの発言が難しい利用者については、表情や言動から、少しでも読み取れるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、職員側の都合に合わせることなく、利用者のその時の希望に合わせるようにしている。散歩や起床・食事・入浴の時間等、その日その時の利用者の状況に合わせた対応をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助が必要な利用者は本人の希望を聞きながら、自分で着替える方も、一緒に選びながら更衣をしている。お化粧の習慣がある方は、家族に持ってきていただき、続けて行えるよう対応している。理美容についても、移動理美容の利用や、入居前の行きつけの美容院に行かれているかたもいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は準備・味付け・盛り付け・片付けまで、能力に応じ、一緒に行っている。職員も一緒に同じものを食べることで楽しい食事の時間を過ごしている。食べにくいものや苦手なものにかんしては工夫して美味しく食べていたできるようにしている。又、不定期で外食の機会も作っている。	朝食は利用者の希望を聞いて献立を立て、昼食と夕食は法人の管理栄養士が立てた献立を基に届いた食材を使い、三食とも事業所で調理している。利用者は、野菜の下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、お茶汲み、配膳、下膳を職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べている。季節に合わせた行事食や誕生日のケーキづくりやおやつづくり、家族交流会での会食、バーベキュー、月1回は外食に出かけるなど、食べることを楽しめるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食と夕食については栄養士が献立を立てている。摂取量については毎食チェックを行っている。必要に応じて、刻んだり、とろみをつけたりしている。摂取量・水分量が少ない場合は果物やヨーグルト、その時食べたものを聞いて代用している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて口腔ケアを実施している。夜間は義歯を預かり洗浄・消毒を行っている。訪問歯科で口腔ケアも行い、職員にも指導していただいている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛けや、その日の体調での声掛けを職員同士ではなし対応している。車椅子で訴えない利用者でも、トイレにて排泄を促している。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、トイレ誘導や声かけ、見守りなど状態に合わせ、トイレでの排泄や排泄が自立できるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便の確認を行っている。日頃から水分補給を促し、摂取量の少ない利用者についてはお茶ゼリーや果物等で代用している。同時に医療との連携も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できるようになっている。入浴の日や時間帯などの希望はできるだけ添うようにしているが、夜間の希望には対応できていない。	入浴は毎日13時30分から17時までの間可能で、希望に合わせて午前中にも対応し、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。利用者の状態によって、シャワー浴、清拭、足浴にも対応し、柚子湯や入浴剤を使用している。入浴したくない人には、タイミングを見計らったり、時間をずらすなど、無理強いしないよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ、日中横になりたい方には横になっていただいたり、その方に合った寝具を使用している。夜間眠れない方にかんしては、一緒にテレビを見たり、話をしたり、お茶を飲んだりして、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬は全員が把握できるよう一覧表をファイルしている。何かあれば主治医に相談し、薬に変更があった場合は、その変化はないか注意している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者・家族に聞きながら、好きだったことや、やっていたことを把握し、一人ひとりの役割を持ていただいている。	利用者の生活歴を把握して、以前にやっていたダンスや調理、習字が出来るようになり、ぬり絵、はり絵、繕い物、生け花、畑づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、しめ縄飾りづくり、ゲーム、手づくりカルタ、カラオケ、テレビやDVD視聴など、一人ひとりの趣味や楽しみごと、活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って個別にドライブに出かけたり、行きたいところ、食べに行きたいところへ行けるよう、家族と相談しながら行っている。今年は、利用者の声から始まり、徳山動物園への外出をおこなうことができた。	日々の散歩や買い物、季節の花見(梅、桜、紅葉等)、イチゴ狩り、ドライブ(動物園、自宅)、初詣、外食など、外出できるように支援している。利用者の希望に合わせて、少人数での外出にも取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いや、嗜好品費については家族より預かり、施設で管理しているが、持ちたい方には持っていていただき、外出時自分で支払われている。財布の保管場所や所持金がいくらあるかは、一緒に確認している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話を利用者本人が希望されるかたが現在いらつしやらないが、電話がかかってくる際は、すぐに本人に代わり話せるよう対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、壁面や温室内のレイアウトの工夫、グループホームでの行事や家族との写真を貼っている。又、利用者と一緒に壁面作品を制作している。	共用の空間には、季節の花を生け、利用者の作品(ぬり絵、はり絵、書写)や季節の飾り、行事の写真が貼ってあり、テーブルや椅子、ソファ等を配置している。掘りごたつのある畳のコーナーでは好きな時に横になって過ごせるように準備している。台所からの調理の音や匂いで生活感を感じることができ、室内の温度や湿度、明るさに配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士がくつろげるよう、ソファを設置したり、カラオケを楽しめるスペースも確保している。居間には掘りこたつもある。一人で過ごせる空間も持てるよう、廊下にも椅子を置いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時点で、自宅で使っていた馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。家族の写真や、飾り等も置いている。居心地のよい環境作りに努めている。	ベットや整理タンス、テレビ、机、衣装ケース、仏壇などを持ち込んで、家族の写真やアルバム、趣味の作品を飾って、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「便所」など案内の紙を貼ったり、居室を迷われる方には扉に名前を貼ったりしている。居室の電気にも分かりやすいよう、テープを張っている。グループホーム全体がバリアフリーになっている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム秋穂あかり園

作成日： 平成 27年 5月 20日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議のメンバーの充実	地域のメンバーの拡大	これまでの民生委員や地域包括支援センター職員、消防署に加え、福祉委員、婦人会など地域住民の方に声をかけ、地域連携を図る。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。